

▶ **冬至を過ぎても日の出が遅い！**

冬至を過ぎてもさっぱり日の出が早くならないことに疑問を抱いて初歩的な確認をしました。

▶ **徳田虎雄さんも晩節を汚した！！**

徳田虎雄さんは、40年前に世間に登場した頃、凄い人だと尊敬した人でした。

▶ **小保方さんはすごい！！**

可愛い小保方さんの執念の取組みを評価いたしました。

▶ **どうも日本の世論は偏りがちですね！**

マスコミが一斉に小保方さん一色になりノーベル賞だ！という軽薄さにくぎを刺しました。

▶ **東京都知事選の正論は？**

原発に対する賛否で候補者を色分けしないように、との正論を紹介しました。

▶ **自転車走行の規制が厳しくなったのをご存じですか？**

自転車に乗る方への警告です。

▶ **Sweeperって名前をどう思います？**

掃除をお好きですか？という問題提起です。

▶ **この本は凄い！！「日本の若者は――」**

今の日本社会の基本構造に対する刮目すべき洞察のご紹介です。

▶ **「なぜ半日韓国に未来はないのか」**

韓国出身の呉善花さんの事実に基づく偏りのない（と思える）詳細な分析です。

▶ **日本の社会制度は崩壊の危機です！！**

重大な「身内の犯罪」が起きました。これは氷山の一角でしょう。早急な対策が必要です。

【このテーマの目的・ねらい】

目的：

- 1月はなぜ日の出が遅いのかを確認いただく。
- 日の出・日の入がどう動くのかを知っていただく。

ねらい：

- 何ともありません。
(今後の生活設計に何か役立つかもしれません)

私の毎朝のジョギングは、ラジオ体操の時間に合わせています。

ジョギングの行き先が西大井のラジオ体操会場なのです。私はラジオ体操には参加しないで、自己流の健康法（あたまブラブラ、正心調息法、脳の活性化法、などです）をしています。



その前後でラジオ体操参加者（ほとんどお年寄り）、散歩の人、犬の散歩の人、通勤の人と挨拶を交わすのが習慣となっています。同じ時間帯だと同じ人に会います。

そのために、同じ時間帯にしているのです。因みに、やはり寒い日はラジオ体操の参加者が少ないです。ずるけていると健康維持によくないと思うのですがねー。

12月に入るとだんだん寒くなると同時に夜明けも遅くなります。冬至の頃は、6時台前半は真っ暗です。冬至を過ぎれば寒さはこれから本番としても、夜明けは早くなっていくと期待します。

ところが一向に日の出が早まりません。ジョギングから帰ってくる頃に漸く日の出なのです。

今さらながら、「あれ、冬至が一番日が短く、過ぎれば日が長くなるのではなかったのか」と疑問が出ました。

毎年同じはずなのに、これまでその疑問が出なかったのは不思議です。

そこで、新聞で日の出時刻を確認してみました。そうしたら下のグラフのように、冬至を過ぎてからまだまだ日の出が遅くなっているのです。【**グラフ1ご参照**】

冬至が日の出から日の入りまでの昼間の時間が最も短いのは事実でした。（ただしその最短の日は、2週間も続くのです）

ということは、冬至を過ぎると日の入も遅くなっていて、日が長くなっているのです。

何でそうなのか？と調べてみました。こういうことは学校で習ったはずですね。ですがまったく記憶にありません。

1. 昼間の時間（太陽が出ている時間）の長短は 太陽が上にいるか南側に片寄っているかによる（これはどなたも知っていますね）
2. 太陽が真南を通過する（南中する）時刻は、夏至と冬至の頃は、だんだん12時より遅くずれていっている。
そうすると、冬至の頃は日の出が遅い方にずれ、夏至の時は日の入が遅い方にずれる。
3. その原因は以下の二つだそうです。
 - 1) 太陽の通り道である黄道と天の赤道が23.4度傾いているため、（地球儀の片寄り）太陽が天の赤道に対して動く速度が一定ではない。
 - 2) 地球の公転軌道が楕円であるため（これもよく見る図ですね）太陽の日々の進みが一定ではない。

そうだとすることで日の出が遅いことは、諦めるしかないですね。1月14日に漸く日の出が早くなる方に転じてきました。

夏至についても同じようなことが言えるようです。
【グラフ2ご参照】

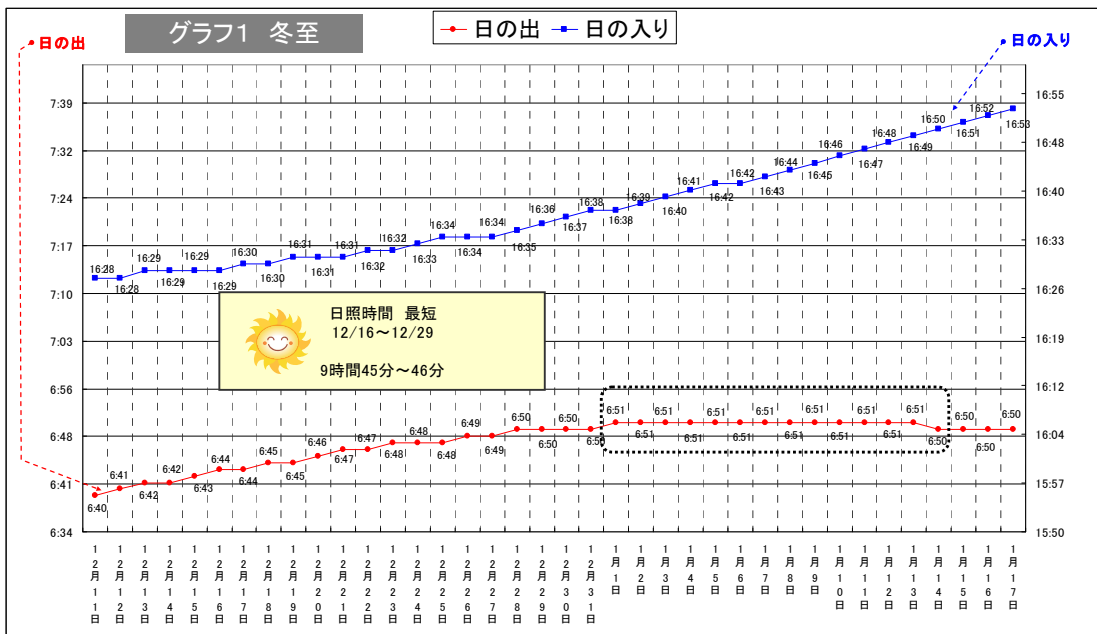
ところで、日の出・日の入時間が載っていた新聞は日経新聞でした。同新聞には満潮・干潮時刻も載っています。

朝日新聞には載っていません。
代わりに3日先の天気予想が載っています。

どちらの情報も役に立つのでしょうか。
日経新聞では日の出・日の入、満潮・干潮がビジネス・生活に影響するという判断なのでしょう。

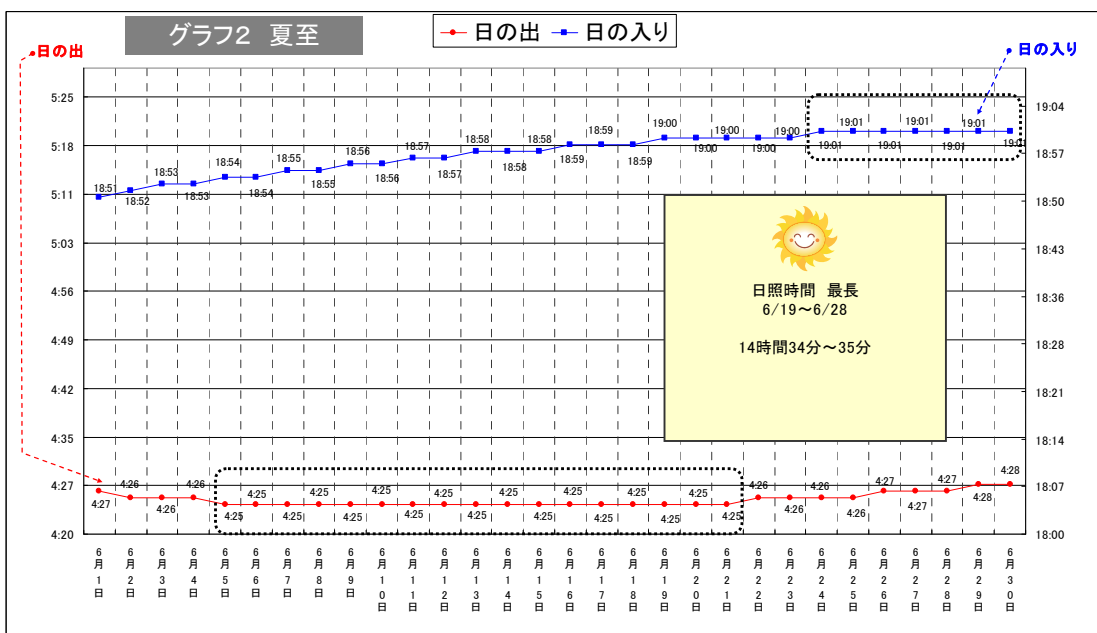
因みに、このテーマは多くの人の関心事のようで、インターネットで検索しましたら、以下の三つのサイトで詳細な解説がありました。

まあよく分かりませんが、冬至を過ぎてても日の出が遅くなる理由があるようです。



本稿の解説はその資料も参考にさせていただきました。

- 日の出と日の入り -nifty
- 「日没が一番早い日」ではない冬至めぐる意外な事実：日本経済新聞
- 日の出が一番遅いの「冬至の日」でない理由 | 雑学界の権威・平林純の考える科学



【このテーマの目的・ねらい】

目的：

- 徳田虎雄氏について思い出していただく。
- 人間の性について考えていただく。

ねらい：

- (それでおわり)

世間を騒がせている徳田虎雄さんは、私と同年の寅年生まれです。

そういう点から、氏が世間に登場した時から関心を持っていました。

記憶にあるのは以下の点です。

辺境の徳之島であったために医師不在で弟さんが命を落とした。

「そういうことがあってはいかん」と一念発起、苦勞して医師になった。

誰でもが医療を受けられることを目標に可能な限り保険で治療ができるようにした。

その方針の病院を徳洲会として全国展開していた。

日本医師会はそのような治療方針の抵抗勢力で、たびたび戦っていた。

戦うには力が必要ということで衆議院議員になった。

少しの時間を惜しみ、歯磨きをしながら体をゆすり、トイレの時間を削減していた。

当時は私も超多忙でしたが、そこまではしませんでした。とにかく英雄的な人だと応援しておりました。その後の経緯は、多くの人の知るとおりです。

そして今回、実子徳田毅氏の選挙違反事件（買収容疑）、猪瀬前東京都知事への資金供与事件を起こしました。

猪瀬前知事との件は、徳州会が東電が売却予定の東電病院の取得に関心があり、それに便宜を図ってもらおうと5,000万円を渡したのではないかという憶測も行われました。

人間はある程度地位やお金ができてくると、潔い志も歪んでくるのでしょうかね。

徳田虎雄氏は、2002年に筋委縮性側索硬化症（ALS）になっておられます。そのための「ボケ」もあるかもしれません。

しかしボケは「欲ボケ」の方に働いているのかもしれない。非常に非常に残念なことです。

このブログで取りあげた「晩節を汚す」は、小泉元首相に次いで2人目ですが、細川元首相が3人目になるようにしているのでしょうか。

【このテーマの目的・ねらい】

目的：

- 小保方晴子さんの素晴らしさを再確認しましょう。
- アイデアが出るのはどうやってかを考えてみましょう。

ねらい：

- 小久保さんにあやかれるように頑張りましょう！

ご承知の騒ぎのことです。

マスコミは、小保方さんがノーベル賞をとったかのような騒ぎ方です。

相変わらずの1パターン扇動者スタイルです。

ですが、まだまだノーベル賞までは先が長いのです。通常の細胞が万能細胞になったということは、マウスにおける実験でのことであって、その確認も一部の研究者が行っただけです。

先ず、「それが本当なのか、一般的にそうなのか」を証明できなければなりません。

次いで、人間の細胞でもそうなるのかを示す必要があります。そこで初めて人類にとって有益な成果であるとなるのです。まだまだ先が長そうです。

私もテレビや新聞の報道を見て小保方さんはほんとうに素晴らしい人だと思います。

テレビのインタビューで、小久保さんはこう言っていました。

「思う結果が出なかったら明日はやめよう」と毎日思って5年経ってしまった、デートの時も、食事をしている時も、このことを考え続けてきました。

これを聞いて私は、「え？これだけ凄い研究者がデートもしてたのか」とビックリ、感心しました。

あらためて小久保さんの顔を見ると可愛いのです。彼氏がいて不思議はない、と思いました。おしゃれにも気を使う美人でバリバリの学者というイメージとはかけ離れていますね。

これだけマスコミから好意的に大騒ぎされるにはこの点が多いに影響していると思われます。

次いで、5年間この一つのことを追い続けてきたことが凄いです。

少しずつ少しずついろいろな条件を変えて試していくのです。気の遠くなるような組み合わせ条件の中から、いい結果を見つけ出しました。

誰も、「そのようなことで発見があるはずだ」と言ってくれていたわけ



ではなく、「何らかの刺激を与えることで万能細胞が生まれるのではないか」という自分の仮説だけが頼りなのです。

よく諦めずに続けた、と思います。これは本当にスゴイです。

これで思い出すのは、以前、このブログでもご紹介した、今の三菱食品をここまで育て上げられた菱食の廣田正元社長のことです。

マスコミの取材で「廣田社長はどうやってそんなに新しいアイデアを見つけ出されるのですか？」との質問に対してこう答えられたそうです。

「いつもそのことを考えています。そうすると何かの弾みにアイデアが湧いてくるのです」

昔から？アイデアが出るのは「鞍枕厠」（あんちんし）と言っているようです。アイデアが出るのは、馬上（移動中）、布団の中、トイレの中、ということで、これを三上と言うようです。

まさにそのとおりで、私も新しいことや難問解決法を考えつくのは、ずっと温めていて朝、目が覚めた後の布団の中か、トイレで座っている時です。

しかし思うに、小久保さんに5年間続けさせてきた理化学研究所というところも凄いですね。そういう環境はなかなか一般の民間では難しいです。

ご参考までですが、鞍枕厠に頼らずにアイデアを出す「想像思考」をお勧めしている研修を以下のブログでご紹介しました。

「新しいアイデアを生み出す凄い思考法が誕生しました！！」

http://uenorio.blogspot.jp/2013/12/blog-post_4190.html

関心のある方がぜひご覧ください。

413	どうも日本の世論は偏りがちですね！
No.65	2014年2月

【このテーマの目的・ねらい】

目的：

- 世論調査の虚構について考えていただく。
- 日本国民の思考体質である「お上」思考を再認識していただく。
- 今後のネットコミの悪影響を想定していただく。

ねらい：

- マスコミ・ネットコミの悪誘導に乗らないように周りに働きかけてください。

特定秘密保護法は昨年12月6日に成立しましたが、12月8日・9日に共同通信社が実施した世論調査は、以下のような結果でした。

- 次の通常国会以降で修正すべき …… 54. 1%
- 廃止すべき …… 28. 2%
- 合 計 …… 82. 3%

実に82%の人が、この法案に反対しているのです。反対理由は、言論の自由、報道の自由が制限されるのではないかという懸念です。

反対者は、実際に自分でこの法の内容を把握してそういう意見を持ったのでしょうか。

ほとんどはそうではないでしょう。マスコミの報道で、「そういう懸念がある」ということを、見たり聞いたりしてそう判断しているのです。

この法の必要性を政府がきちんと説明しなかったことも、「何か怪しい？」と、懸念を増長させたこともあるでしょう。

しかし、基はマスコミの報道です。日本の多くの大衆は、マスコミの言うことが真実だと思って受け入れています。

以前のこのブログにも書きましたが、「お上」体質が染み付いてしまっているのです。

以下のような真実とは異なることが常識としてまかり通っています。

- 放射線はごく僅かでも身体に悪い。
- 原発は地震に弱い。
- 太平洋戦争は日本の軍部が仕掛けた一方的な侵略戦争である。
- 中国・韓国を含む東南アジアを侵略し残虐行為をした。
- 韓国の婦女子を強制連行して従軍慰安婦にした。

マスコミの報道以外の原典に当たっている日本人がどれだけいるのでしょうか。原典に当たっていない人はマスコミの報道と同じことを事実として頭に入れていることになります。

その状態で世論調査をすれば、ほぼマスコミの報道姿勢と同じことが出てきます。

すると今度はマスコミが、世論調査等を引用して、「国民はこう考えている」と自らの姿勢を正当化しています。

そんな田舎芝居をもっともらしくマスコミと多くの国民が演じていると言えるのではないのでしょうか。

今後は、ネットのツイッター情報がこのワルマスコミ役に加わることになりそうです。

これはマスコミの次の勢力になるネットコミです。

1月14日の日経新聞に以下の記事が載っていました。

「少数が生み出すうねり」2013年9月7日から12月8日までの3カ月以下の3つのキーワードに関するネット上のつぶやきを調べた（はやりのビッグデータ分析です）。

テーマ	件数	発信者数
原発（原子力発電）	420万件	40.3万人
消費税	192万件	51.8万人
T P P	95万件	13.2万人

ところがこの3か月間に100回以上呟いた人の比率とそ
の人たちの呟き件数の全体に対する比率は、

テーマ	100回以上 呟いた人の比率	呟き件数の 全体に対する比率
原発 (原子力発電)	1.8%	56.8% (239万件)
消費税	0.4%	28.3%
TPP	1.0%	46.9%

となっていて、ごく少数の人が大量の情報発信をしている
のです。

こういう一部の「オピニオンリーダー」の意見が世論を左
右するという事態も想定されそうです。

しかし、多くの国民がこういうテーマに関してネット上
で意見交換するということは、残念ながら「お上」の国、
日本では難しいかもしれません。

今後の動向を見守る必要がありそうです。

414	東京都知事選の正論は？
No.65	2014年2月

【このテーマの目的・ねらい】

目的：

- 都知事選の筋・正論について考えていただく。
- ここでも、マスコミのいい加減さについて考えて
いただく。

ねらい：

- 正論の延長で都知事が決まっていほしい。



細川さんが小泉さんと組んで都知
事選に出馬すると意思表示した時
の、細川さんの主張、少なくともマ
スコミの取り上げ方は「原発即0」
でした。

そこで日経新聞にも以下のような
記事が載りました。

(1月15日編集委員 谷隆徳)

「原発は最大の争点か」

東京はエネルギーの最大の消費地である。
その東京が再生エネルギーの普及に取り組み、省エネを進
めることは重要だ。

東日本大震災以降、都はこうした施策を重点課題に位置付
け、株主として東京電力の経営にも注文をつけてきた。

しかし、原発が立地しているわけでもない東京の知事選で
「脱原発」を最大の争点に位置付けていいのだろうか。

まるで、都知事には原発政策を左右する権限がある」と有
権者にご会や幻想を与えかねない。

そのとおりです。100%、この意見には賛成です。

その後、細川陣営は「再稼働しないイコール原発即ゼロ」
と説明し、「再稼働を止めるという政治決断を行うのは
今しかない」と訴えています。

否定で終わってはどうにもならないので、「すでに東京
都が掲げている再生可能エネルギー供給目標「2020
年に20%」の達成に向けて世界の先進的な施策を導入。

東京を世界一の省エネルギー都市にする」というように
前向きのエネルギー政策についても付言しているよう
です。

ところが、「大衆」迎合のマスコミは、分かりやすくす
るために、原発に対する姿勢で候補者の色分けをしてい
ます。

「大衆」がその点だけを見て投票するようでは2009年の
衆議院選挙と同じムード選挙になってしまいます。

きちんと立候補者の人格と主張を見抜いて投票してほし
いですね。

415	自転車走行の規制が厳しくなったのをご存じで すか？
No.65	2014年2月

【このテーマの目的・ねらい】

目的：

- 自転車に乗る時の注意を知っていただきます。
- 自動車運転の際の一時停止について知っていただ
きます。

ねらい：

- 事故や違反を起こさないようにしてください。

2013年12月2日の日経新聞の記事です。

6月に公布された改正道路交通法の一部が(12月)1
日、施行された。

自転車が道路の路側帯を走る場合、車道と同じ左側通
行に統一されたほか、

とあります。

ご存じのように、路側帯というのは車道の両端を区切っ
て青く表示している自転車専用走行路です。

これまでは、どちら側を走っても咎められることはな
かったのですが、12月からは許されなくなったのです。

違反すると、なんと「3か月以下の懲役か5万円以下の罰
金」を科されます。

自転車で走っているだけで罰金を科されるということは、
今まであまりなかったのですから、たいへんなことです。

もっとも人身事故の場合は、これまでも厳しい裁きが行
われています。

1月28日にも、こういう報道があ
りました。

2010年1月10日に会社員の男性が、
わき見をしていて75歳の女性に衝



突し、女性は転倒して頭を強く打ち 5 日後に死亡した事件で、東京地裁は男性に 4746 万円の賠償を命じました。

その以前に、10 年 8 月にその男性は重過失致死罪で、禁固 2 年、執行猶予 3 年の判決が確定しています。

他にも高額判決は続いているようです。

さらに、自分にも危害が発生します。
私の大学空手部時代の強い、素晴らしい先輩が、数年前 70 歳代の時に、自転車で転倒し亡くなられました。

車道から歩道に上がる縁石に車輪を取られたようです。

自転車に乗っているかたは気をつけましょう。

話変わり自動車運転の方で、私は、先日高齢者講習を受けて免許更新しました。

6 人 1 組の講習でしたが、他の 5 人は返上した方がいいのではないか、と思えるような方々でした。

シミュレータの操作演習以外に実技もあります。

私は、現役ですからスイスイの運転でしたが、1 箇所で注意されました。

それは、一時停止です。

一時停止は「停止線で止まらないで前へ出て止まると違反になる」ということは、取り締まりを見て知っていましたからずっと守っています。

ところが、「一時」だから、さっと左右を確認したら 1 瞬でも止まればいいのだろうと思っていました。

それで、その調子で行くと、停止していないと指導員に叱られました。

「しましたよ」と抗弁しましたが、規則では明示されていないけれども内規で 3 秒だということです。

これは勉強になりました。

実は数年前にゴールド免許だった私が、第 2 京浜から環七に出るところで、一時停止違反で捕まったのです。

私は「一時停止した」と主張しましたが、警察官は「していない」と言うのです。

争おうかと思いましたが、警察署に出かけるのも面倒なので諦めました。

しかし、免許証がゴールドでなくなった時には「やはり争えばよかった」と痛恨の極みだったのです。



その後、タクシーの運転手さんから聞いた話では、目撃警察官が 2 人だと勝ち目はないが 1 人なら争っていける可能性があるかと教えてくれました。

でも、3 秒でないダメということならダメでした、ということが今回判明したということです。

しかし考えてみると、3 秒とかいう形式基準は本当は意味がないですね。

「止まって左右を確認してから出ていく」ということが目的ですから、1 瞬でもその確認ができていればいいので、3 秒止まっても左右の確認をせずに進行して衝突するのはダメです。

目的を考えればそうなりますね。

どう思われます？

取り締まる方からするとよく確認しているかどうかは見えないので 3 秒とかの外的基準を適用しているのでしょう。

したがって、徹底的に争えば勝てそうですね。

脇道に逸れましたが、このテーマの目的は、「自転車で走るかたは気をつけましょう！」ということでした。

お気をつけください！！

416	Sweeper って名前をどう思います？
-----	----------------------

No.65	2014 年 2 月
-------	------------

【このテーマの目的・ねらい】

目的：

- Sweeper の意味について考えていただく。
- Sweeper 養成研修を知っていただく。
- Sweeper 養成研修を受けようと思っていただく。

ねらい：

- Sweeper 養成研修を勧めていただく。
- Sweeper 養成研修を受けていただく。

当社では、3 年前から「Sweeper 養成研修」と称して、保守業務（改良開発業務）の改善を推進する方を養成する研修を実施しています。

Sweeper というのは、掃除をする人という意味です。整備されていない現状の業務をキレイにする人を養成するという目的の研修なのです。

この名称をナカナカいいと言ってくくださる方がほとんどでした。ところが、先日ある人に「この研修の名称がよくない」と言われました。そう言われるのは初めてなのでビックリしました。

それで考えてみました。

掃除をしてきれいになるのが嬉しい、好きな人と掃除は面倒くさいと思っている人の違いではないか、と。

私は前者で、毎朝我が家の周りを掃除しています。我が家の狭い庭には、4 本も葉を落とす樹があります。落ちた葉は、風で隣近所に飛んでいきます。

そこで、角地にある我が家の周辺の 4 本の道路の合計 8 本の両脇を掃除します。

その過程で多くの通行人（犬の散歩の人が多く）と挨拶します。「キレイになって気持ちいいですね」と言われるとますますやる気になります。

ですから、この研修名も私が命名しました。

この研修の第6期生を現在募集中です。
日本でこれしかないたいへんユニークな研修です。

「宝の山」を掘り出して、経営に貢献する要員を作り出すのです。

「宝の山」とは、放置されているソフトウェア保守業務が対象なのでこれを整備するとすぐに大きなコスト改善効果が出て経営に役立つ前向きの保守に取り組めるようになるという意味です。

是非、研究してみてくださいませんか。
<http://www.newspt.co.jp/data/sweeper/sweeper.html>

追伸：以上を書いてみて、研修名称は宝の山を掘り出す人という言葉があれば、その方がいいな思いました。今後改称するかもしれません。

417	この本は凄い！！「日本の若者は――」
No.65	2014年2月

【このテーマの目的・ねらい】

目的：

- 今の日本社会は家庭の親が子の面倒を見ていることで成り立っていることを認識していただく。
- その先はどうかを知っていただく。
- その対策はどうすればよいかを考えていただく。

ねらい：

- 何か考えたり行動したりしないとイケませんね。
- 「選挙で票になる高齢者優遇」を弱めることに賛成していただく。



「この本」の名前は、「なぜ日本は若者に冷酷なのか」です。著者は山田昌弘中央大学文学部教授です。

この書名を見た時に、私はこう思いました。

日本の若者の失業率は、世界で最も低く、恵まれているのにどうということか？

たとえば、以下のデータをご覧ください。

ILO（国際労働機関）1月21日に発表した13年のデータ

● 北アフリカ ……………	29.4%
● 中東 ……………	27.2%
● 先進国 ……………	18.3%
(南欧諸国が50%以上、仏27%、伊38%)	
● 世界全体 ……………	13.1%
● 日本 ……………	7.3%

まったく不勉強でしたが、山田教授は、「パラサイトシングル」「婚活」などの命名者なのです。

とにかく、その分析の着眼力は驚嘆に値します。

「これはスゴイ！！」と思った本は、これまでは波頭亮さんの当ブログ2012年4月「これは凄い！！成熟日本への進路」

http://uenorio.blogspot.jp/2012/04/blog-post_23.html でしたが、本書はこれに匹敵するインパクトがあります。

若者に冷酷の意味は以下のとおりです。

社会が若者に冷酷なのではありません。国の制度が若者に冷酷なのです。

どういうことかと言うと、こうです。

今の若者は、パラサイトシングル、などで親のスネをかじっています。

若者の親は、高度成長期の真最中に就職しました。ほとんどの人は、ほぼ望む安定した正社員の座を獲得することができました。

従って生活も安定していて、子供の面倒を見るのが可能です。

子供がブラブラしていても、定職に就かなくても、不安定で低賃金の非正規労働者でも、結婚しないで家に居残っていても、生活を保証することが可能なのです。

そのように、親がかりで独身の人をパラサイトシングルと命名したのです。

私は以前、当ブログで、親がまともに育児ができない対策として、2世代・3世代住居の拡大を提案しました。2012年5月「2世代・3世代同居を考える」

http://uenorio.blogspot.jp/2012/05/blog-post_5360.html

この項のタイトルは間違っていましたね。育児強化の目的からすると、2世代では無関係で3世代とすべきでした。

「2世代」は、現在のようにパラサイトシングルを助長することになってしまうのです。

親の負担ということでは、たとえば教育費です。日本では大学を出るまでほとんどの学費を親が出している。欧米では国が学費補助をしたり、各種奨学金制度があり、親が負担することはほとんどない。

日本の社会維持費は教育費補助に使われずに、その多くが高齢者向けの社会保障に使われている。

親が教育費等の子供の費用を負担しているので、日本の財政は保っているのだ、と言えるのです。

これらのすべてにデータが示されています。ご関心ある方は是非本書をご覧ください。

ところがです。その状態はいつまで続きますか？

今の脛かじりが親世代になったときにその親は子達の面倒を見られますか？その力はないでしょう。

それなりに恵まれた家庭に育ち教育を受けられる層と生活破綻に近い家庭で生を受ける層とに二極化し中間層主体の日本社会のイメージは崩壊します。

この状態を放置すれば、社会が破たんします。

ではどうしますか？

そこにはあまり名案はないようです。

(上野意見) 抜本策は日本の産業が活性化して、正規雇用者を増やし、まともな生活ができるように賃金を上げるしかないのです。

さすがにこの名案は、山田先生にもないようです。先生の挙げられる対策は以下のようなものです。

- 子供手当を増やす。
- 年金など社会保障費を減らし教育費補助等に回す。
- 女性が働きやすい環境を作る。
- 職業人として活躍できる教育を充実する。

現状の分析の切れ味に比較して、これらの対策は一般的です。

対策の一つは、非正規労働者の賃金を上げることです。

非正規労働者を減らせという説もありますが、そうすると産業構造が硬直化して、世界の変化に追随できなくなります。

企業は自分達に都合のよい非正規労働という制度を利用するので、そのコストが高まることは、自助努力で対応しなければならないでしょう。

アクリフーズの農薬混入問題は、信頼社会の日本で起きたということで衝撃的ですが（中国と同じことになってしまいました）、本書の文脈「若者に冷酷」にも関係しているでしょう。

日本再生の対策は、前掲の波頭さんの著書の方が具体的です。

私の主張は、若者に力をつける元は幼児時代に決まるので、幼稚園で競争心を強化する教育をしましょう、ということになります。

2009年1月「幼稚園時代から競争心を！」
<http://www.newspt.co.jp/data/mailmag/bk/0004.txt>

しかし、改善は、現状を見える化することがスタート台です。その点からすると、問題が明確になれば、改善方向は決まってくるのです。

その意味で、山田先生の問題指摘は的を射ていますから、その先の解決策はみんなで知恵を出し、将来の日本のために協力しなければならないのです。

年金の減額も我慢しましょう！！

追記：
当書では以下のように興味深いテーマが取り上げられています。ご参照ください。

- 就活以外の選択肢がない学生たち
- 司法試験不合格者をどう処遇するか
- 結婚を阻害する要因が山積
- なぜ若者は恋人をつくらないのか
- 学歴を費用対効果で格付けする
- パラサイトシングルの末路
- おカネを使わない日本の男性

418	「なぜ半日韓国に未来はないのか」
No.65	2014年2月

【このテーマの目的・ねらい】

目的：

- 韓国の反日政策の背景を再認識していただく。
- 韓国の国内の状況を知っていただく。

ねらい：

- 韓国をもう少し理解していただく。
- その上で適切な対応を皆様で考えていただく。

このタイトルは、日本で多数の著書のある呉善花さんの最新の著書名です。



韓国問題は、これまでも当ブログで取りあげてきました。それは、韓国の言動批判だったり、表層的な原因分析だったりでした。国論も概ねそのレベルです。

ところが、本書では韓国国籍の著者が、客観的に事実を検証しながら現状と経緯、その背景を探究しているのです。

私もかなり韓国観について認識を改めました。

そこで、著書の主張を

- 歴史的事実、
- 反日の原因・理由、
- 今後の見通し（「未来はない」）

等に分けて整理しました。

その前に著者 呉善花さんの経歴をご紹介します。

1956年韓国済州島生まれ

1983年来日、大東文化大学の留学生

その後東京外国語大学大学院修士課程（北米地域研究）を修了

在学中に執筆活動を始め、90年「スカートの風」がベストセラーになった。

現在、拓殖大学国際学部教授

1. 歴史的事実

1) 日本統治時代 この項は上野補記

1910年～1945年9月9日（日本総督府降伏文書調印日）

1910～1919 武断統治期

1920～1937 文化統治期

1937～1945 戦時体制期

この時期の違いでまったく統治方法が異なる。

文化統治期は、朝鮮のためになる統治を行った。

（日本統治の評価は、どの時代を見るかによって大きく異なるのです）

2) 歴代大統領の対日政策

初代李承晩以来現在のパク大統領は11代目初代から6代のノ・テウ大統領までは軍政7代以降が文政

いずれも以下の特徴を持つ。

李承晩の始めた以下の「政権崩壊をもたらしかねない民間・軍・左派勢力などからの批判をかわすために打ち出した国家戦略、それが日本との対決姿勢を露わにした反日政策」を踏襲している。

「一つは、自らの失政などで国民の支持が急落したとき、もう一つは、親北・従北朝鮮勢力が大きな力をもって政権の存立を脅かすようになったとき、韓国の政権は必ず強固な反日政策をとった。

内部の敵による攻撃をかわすため、外部の敵（日本）へと国民の目を向けさせるのである」

（上野注：この点はよく知られていることです。歴代の大統領は、当初は現実主義（日本からの恩恵を大きく受けている）から親日を謳いますが、国民の支持が弱くなると反日を前面に出すという繰り返しの繰り返してきてたのです）

3) 1945年の建国の経緯

韓国は8月15日の日本敗戦により独立したが、その指導者は李承晩ら大韓民国臨時政府の者である。

この臨時政府は戦前から反日活動を行っていた。本拠は上海等に置いた少数の政治活動集団にすぎなかった。

それが初代政府として認められたのは、軍政を敷いていた米国が李承晩の親米・反日・反共産主義を評価してのことである。米国は日本復活とソ連を警戒していたからである。

つまり米国の後押しで李承晩政権は成り立ったのである。したがって、反日はその政府の基本方針でなければならなかった。

そこで終戦当時は、ほとんどの官民の要職は親日派で占められていたが、親日派排除政策を押し進めた。

それができたのは米国のバックアップである。

米国の意向だけでなく、

親日派排除をしなければならない大きな理由があった。

それは親日派排除を強く主張する左派勢力への対抗であった。現実的には親日派を活用しないと国が回らないと考える李政権と理念的な左派勢力の争いでもあった。

また、国民の支持をつなぎとめるためにも李政権は反日を謳わざるを得なかった。

しかし実際には親日派を受容さざるを得ず、本音と建前の矛盾があった。

その矛盾を左派勢力が突き、左派勢力は国民の支持を得続けている。その保守と左派勢力の対抗は現在までも続いている。

時の政権は支持基盤が怪しくなってくると建前の方の反日を持ち出すのである（前掲）。

2. 反日の原因・理由

(1) 日本蔑視・自民族優越主義

歴史的に中国（中華）の忠実な臣下だった朝鮮は、周辺国に過ぎない夷族を蔑視していた。

その日本に蹂躪されることは、とても許されることではなかった。

(2) 反日を掲げざるを得ない強固な理由

- 1) 1. で見たように、建国の状況からして、反日抗戦の正当な承継者であることを示すことが必要であった。
- 2) 同時に、当時の米国の日本弱小化政策にも合い、その支援も受けて反日を前面に出したのである。
- 3) さらに、北朝鮮側の影響を受ける左派勢力に対抗するためにも反日が必要であった。

以上3点は、選択の余地のない必須政策の根拠であった。

(3) 反日を明確にする政策

- 1) そこで、反日の旗印を政府の存在理由とするために、自らの力で日本からの独立を勝ち取ったと喧伝するようになった。

「韓国の独立は、大韓民国臨時政府が主導した反日独立運動の流れの中で勝ち取ったもの」というストーリーができ上がったのである。

国論を統一するには、この建国の経緯を大義としなければならない。

- 2) 反日教育
日本は統治時代に、武断的・暴力的・収奪的は支配をした、農民の土地をとりあげた、などの歴史改ざんを行い、かなり強固な教育をしている。

したがって、反日感情を持っているのは、日本統治時代の体験がなく教科書で教わっただけの人だという調査結果が紹介されています。

3) 密告制度

密告制度は、近代に至るまで朝鮮半島に続いた古代的な王朝国家の伝統が引き継がれているものである。

その制度を利用して親日・親北と思われる国民の摘発が行われた。

3. それ以外の主張

日本の統治時代を直接知っている人は反日ではない。
(この調査結果が紹介されています)
したがって韓国の反日は教科書教育による虚構である。

日本統治時代、経済成長率は高かった。
米の生産高も急増し、国民の生活は大幅に改善された。
ソウルはスラム街から近代的都市に変貌した。
慰安婦強制連行を見た者は一人もいない。

4. 「行き詰る韓国社会」

このタイトルで以下の状況が具体的に解説されています。

深刻化する二極化社会
失業率の高さ
貧困層の拡大
福祉支出の低さ

家計債務の著しい悪化
大企業経営陣の高額な収入と資産

ウォン安頼みの輸出経済の終焉

横領詐欺事件の急増
凶悪犯罪が年々増加
若者たちの絶望と腐敗にまみれた社会

5. 今後の見通し

韓国政府は、反日・親中で行こうとしている。
先代帰りである。
この政策は、あまりにも歴史認識が甘い。

日本としては放っておくしかない、
というのが呉さんの結論です。

極端に言えば、韓国の反日は根が深い、しかし韓国を無視してもたいして損をすることはなく、好きにさせておけ、ということです。

その点、放置するとどうなるか分からない中国問題とは相を異にします。

以上、雑な整理で申し訳ありません。本書の事実検証は秀逸です。是非原典をお読みください。

【このテーマの目的・ねらい】

目的：

- 日本の骨格制度が崩壊しつつあることを強く認識していただく。
- 非正規雇用の改善について考えていただく。
- 定年延長について考えていただく。

ねらい：

- 日本を崩壊から救うことにご尽力いただく。

アクリフーズ社の農薬混入問題は、身内の犯罪であるという衝撃的な事件です。

この犯人は、49歳独身で年収200万円程度の非正規労働者でした。

日本の非正規労働者の比率は、この10年急速に増加して2013年の非正規雇用者は、

全体で36.6%、
男性は21.1%、
女性が55.8% となっています。

(1月31日発表、総務省発表労働力調査による)

特に24歳未満の若者の場合は、
男性42%、女性52%だといいます。
(山田昌弘氏「なぜ日本は若者に冷酷なのか」)

今は定年延長を進めていて、新規雇用の枠が狭められています。どこの国でも若者の失業率が高くなっています。
(別項「この本は凄い「日本の若者は一」参照
http://uenorio.blogspot.jp/2014/02/blog-post_1.html)

これらの事実はどういうことを示していますか？その対策は国の活力を維持する上で焦眉の急のテーマです。

【終身雇用制度を見直し正規雇用者を増やせ！】

日本の雇用慣行は、定期採用、終身雇用です。一旦正規雇用で採用すると、よほどのことがなければ、解雇できません。

企業側としては、右肩上がりの成長が当然ではない時代になれば、需要に合わせて雇用も変動させないと生き残れません。

そこで正規雇用を縮小して、非正規雇用に頼るという当然の帰結となります。

非正規雇用者の増大は、日本の雇用慣行のせいなのです。

正規雇用者でくびを切られるのなら非正規雇用と同じじゃないかと思いませんか？

まったく違います。非正規雇用者は期間満了の度に今度は継続されるだろうかと不安なのです。

正規雇用者は、原則として継続です。
「何かの時に」どうすればよいかを考えればよいのです。

非正規雇用の問題はもう一つあります。
同じ仕事をしていても賃金が安いという点です。
同一労働同一賃金ではないのです。

現在、この点については、改めようという動きもあるようです。

非正規労働者の比率に関する国際比較は、非正規の定義の違い等もあり単純比較は難しいようですが、米国は非正規の率が低く、ヨーロッパ先進各国はほぼ日本と同じ状況のようです。

正規労働者の解雇容易性からうなづける状況です。

波頭亮氏の分析によると、解雇容易性と近來の経済成長率には、極めて強い相関があります。

当ブログ 2012年 4月「これは凄い！！成熟日本への進路」
http://uenorio.blogspot.jp/2012/04/blog-post_23.html

解雇された人は、伸びている新しい産業に職を求めることによって、産業構造の転換が強くなっているのです。

いずれにしても、帰属意識のない、または薄い社員に頼って事業を行うのは極めて危険であることを今回の農薬混入事件は物語っています。

お互いの信頼関係の基にことを進める、ということができなくなっているのです。怖ろしいこと、情けないことではありませんか！！

企業だけでなく、家族も、地域もその絆が崩壊しつつあります。

早急にその巻き直しを行わなければ、日本の良さが失われるだけでなく、前提の異なる条件でことを進める、あるいは勘違いでことを進めることで失敗するということが頻発してくるでしょう。

そういう構想があるようですが、まずは、特区で雇用条件を弾力化することを進めるべきです。

これは雇用者の立場が弱くなるのではなく、雇用者全体としては正規雇用者の比率が増えることで雇用者全体の地位向上になるのです。

現在の正規雇用者優先の制度は、社会的弱者にしわ寄せをしている「悪法」です。

是非そういう観点でこの制度改善に取り組んでほしいものです。

私は家族の強化については、以下のブログで意見を開陳しています。

2012年 5月「2世代・3世代同居を考える」
http://uenorio.blogspot.jp/2012/05/blog-post_5360.html

地域の強化についてはその一部の意見を以下のブログで開陳しています。

2012年 2月「高齢者や日本を明るくする私案」
http://uenorio.blogspot.jp/2012/02/blog-post_5918.html

【定年延長は止めるべき！】

定年延長も好ましい方法ではありません。
定年延長は二つの面で弊害があります。

一つは延長された側で必ずしも嬉しくない仕事をお金または暇つぶしのためにしなければならないことです。

もう一つはそれが極めて大きな問題ですが、若年層の職場を奪うことです。

ではどうすればよいか？定年延長しないのです。

そして、定年を迎えた方に、あるいはその前でも、介護・福祉の職場を斡旋します。斡旋は公的な機関を利用すべきでしょう。

公的な機関は、定年者を出す側から何らかの費用をいただきます。無理やりの仕事で給料を払わないで済むのですから、その方が負担が少なくてすみます。

介護・福祉の職場は現在人手不足で、今後ますます不足します。

介護・福祉の対象者は高齢者です。
高齢者同士で助け合うことはとても良いことです。
高齢者に向いている仕事でもあります。

介護者の給与は現在極めて劣悪です。介護福祉士の資格をとっても、そして重労働・変則勤務でありながら、一般的な大卒の初任給より安いのですよ！！

介護福祉士のあとケアマネージャーの資格まで取った我が娘は厳しい勤務と低賃金に耐えかねてその職を放棄してしまいました。

その職業の待遇改善はまずは必要です。

でも定年を過ぎた第2の人生の方なら、ボランティア精神で働けるのではないのでしょうか。

定年延長は、単純に現在の雇用企業に負担を強いる案で何も考えないお役人の安易な対策です。

考え直してほしいものです。

追記：

このような重大なテーマをこんなに簡単に終わらせてはいけないのですが、もう締切りです。

とりあえずの問題提起ということでご容赦ください。

